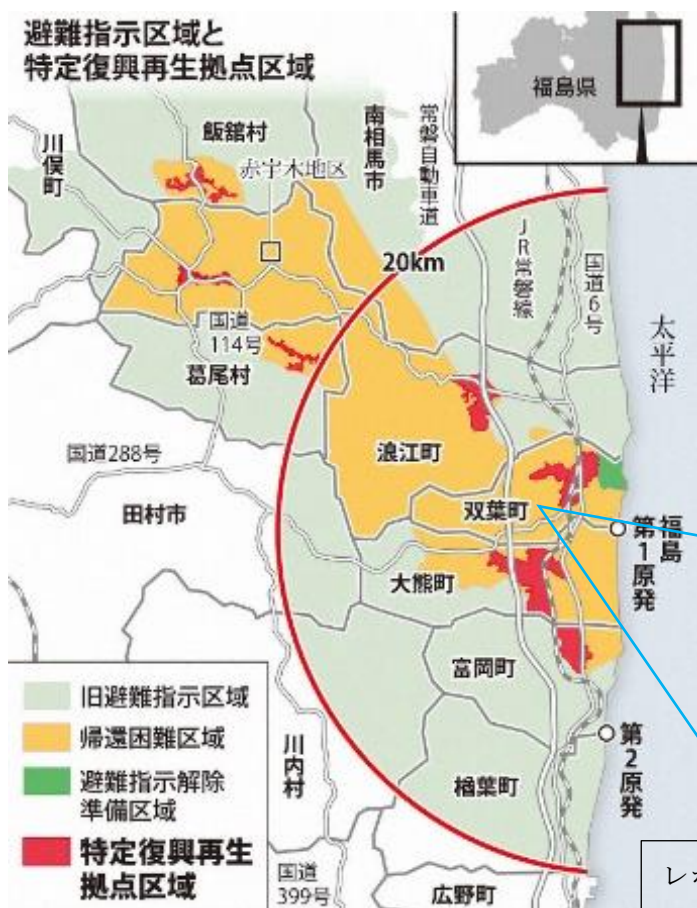


2022年10月1日 秋号  
一般社団法人 被曝と健康研究プロジェクト

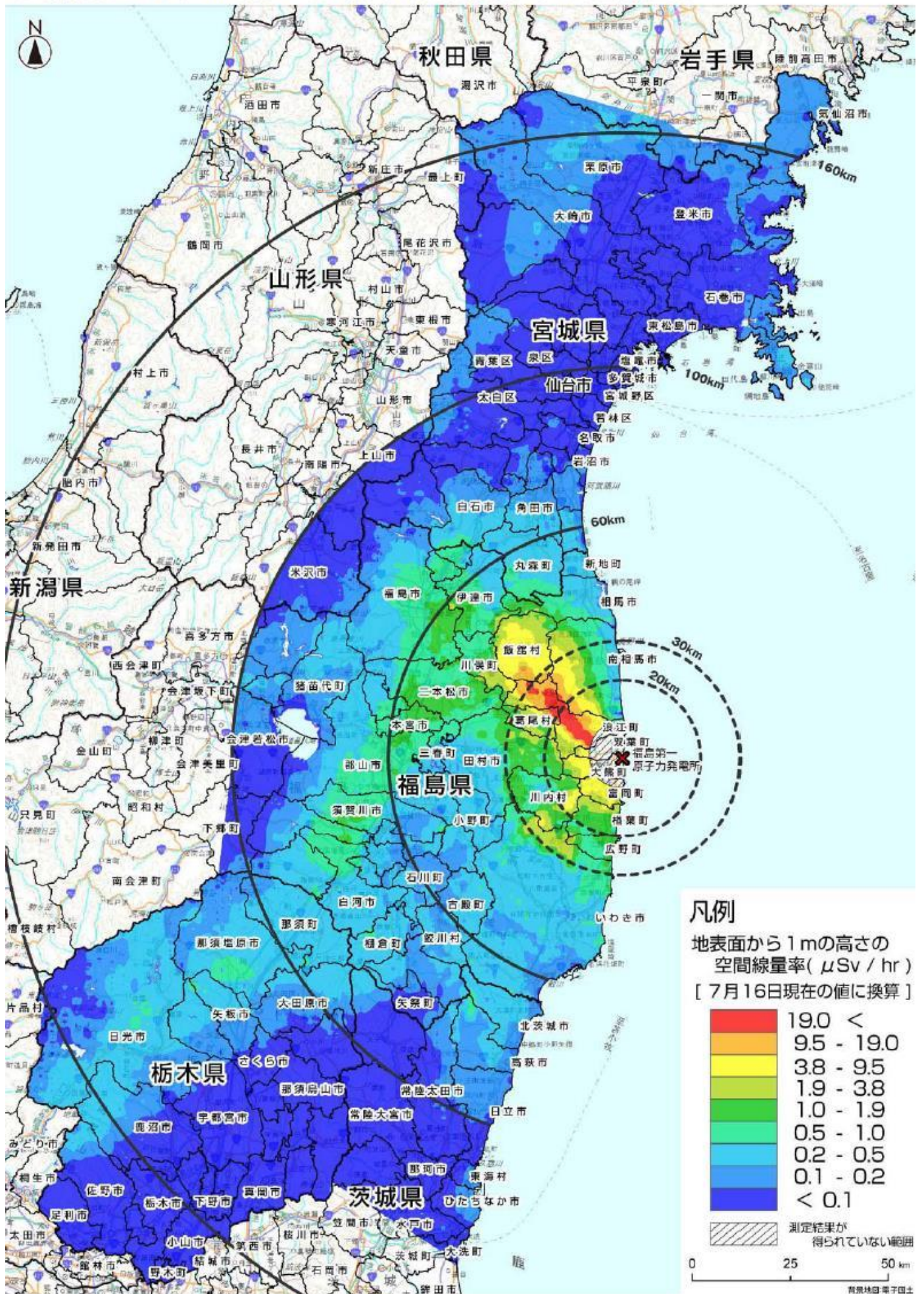
# 原発事故

## を歩いた

# 十一年目の双葉・大熊町

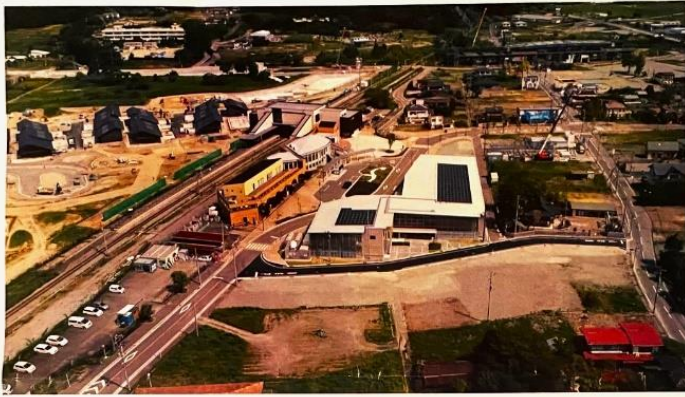


◆別図 2011年7月27日 文部科学省及び栃木県による航空機モニタリングの結果 (C134、C137)  
 (文部科学省がこれまでに測定してきた範囲及び栃木県南部における空間線量率)



2022年8月30日午前0時、原発立地の双葉町で避難指示が解除された。

# 8月30日 午前0時 避難指示解除



2011年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴い、全町避難が続いていた福島県双葉町の帰還困難区域のうち特定復興再生拠点区域（復興拠点）の避難指示が8月30日午前0時に解除されました。

30日午前0時を迎えるにあたり、双葉町内には多くの報道陣と町関係者集まりました。前日の夜には、JR双葉駅前の特設ステージで、避難指示解除を歓迎する「おかえりプロジェクト」と題したセレモニーが町民グループにより実施されたほか、ボランティアグループによるキャンドルの点灯などが行われ町を飾りました。

セレモニーを主催した町民グループの代表は、「今日の避難指示解除をきっかけに、町にどんどん活気が戻ってきてくれることを願います。」と町のさらなる復興を祈願しました。

東日本大震災からはすでに11年5カ月が経過しています。双葉町の全町避難前の人口は約7000人。この11年でみな生活

## 広報ふたば 号外

発行 双葉町  
本紙に関するお問い合わせ先  
双葉町 秘書広報課 ※9月5日より  
福島県双葉郡双葉町大字長塚字町西3番地4  
電話 0240333211（代表）広報直通  
※9月4日まで、双葉町では、双葉町に在住のみなさんへお伝えしたい。



の拠点を町外へと移しています。去る8月27日にはJR双葉駅前に双葉町新庁舎が開所し、帰還・移住の拠点として整備されている双葉西側地区の災害公営住宅への申し込みも順調に進められています。

住民の本格的帰還に向けて、解決すべき課題はまだ山積していますが、震災から11年5カ月を経て、ようやく町内で踏み出した第一歩は、確実に真の復興へと向かっています。

町の情報をいち早く！  
双葉町公式 YouTube チャンネル

インフルエンサーを目指して！  
TikTok 双葉ダルマさん公式

町は「広報ふたば」の号外を発行した。広報には、新装なった役場を中心の写真と「避難指示解除」の大文字が躍っていた。

本文には、「前夜には『おかえりプロジェクト』と題したセレモニーが実施され、キャンドルの点灯などが行われ町を飾りました。セレモニーを主催した町民グループの代表は、『今日の避難指示解除をきっかけに、町にどんどん活気が戻ってきてくれることを願います。』と町のさらなる復興を祈願しました。」とある。

田代真人と福島三春の写真家飛田晋秀の二人は、9月15日午前10時、町民の願いを検証するべく、双葉町、大熊町めざし三春から車を駆った。

国道288号を一路東へ。約90分の道程だ。

ところが、原発20キロ地点に入ると、車内の放射線計測機は、数値を上げ始めた。

日本の法令は、一般人が年間に浴びる放射線基準を1mSvと決めている。それは、1時間に直すと、0.23μSv/h(マイクロシーベルト時)ということだ

- 中屋敷トンネル 0.55μSv/h
- フレコンバッグ置場 0.30~0.34μSv/h
- 玉の湯温泉トンネル 0.30~0.34μSv/h
- 双葉町役場新庁舎付近 0.35μSv/h

## 国道288号線沿いの「帰宅困難地域」

▼商店はまるで廃屋であるかのようにだった



放射線量計測器は 5.02  $\mu\text{Sv}$ を示した▶



双葉高校と  
双葉高校中庭▶



◀▲1.15  $\mu\text{Sv/h}$



▲双葉駅5mの会社事務所

◀玄関前 1.24 μSv/h



双葉町で自動車整備工場だったA氏宅の中庭には、背丈ほどの草が生えていた。雨どいの下で、放射線値11.20 μSv/h。筆者も思わず驚愕の声をあげた。





▲誰もが利用できるようになっている大熊町大野駅前 0.98  $\mu$ Sv/h

同大野駅西側バス停付近 1.01  $\mu$ Sv/h▼



帰りに国道6号線を走ってみた。

大熊町でも、双葉町でも国が設置した放射線表示器は隣町ということもあって 1.324  $\mu$ Svという同じ数値を示していた。

乗用車もトラックも、規制もなく何事もなかったかのように走っていた。

## ▼大熊町



## ▼双葉町

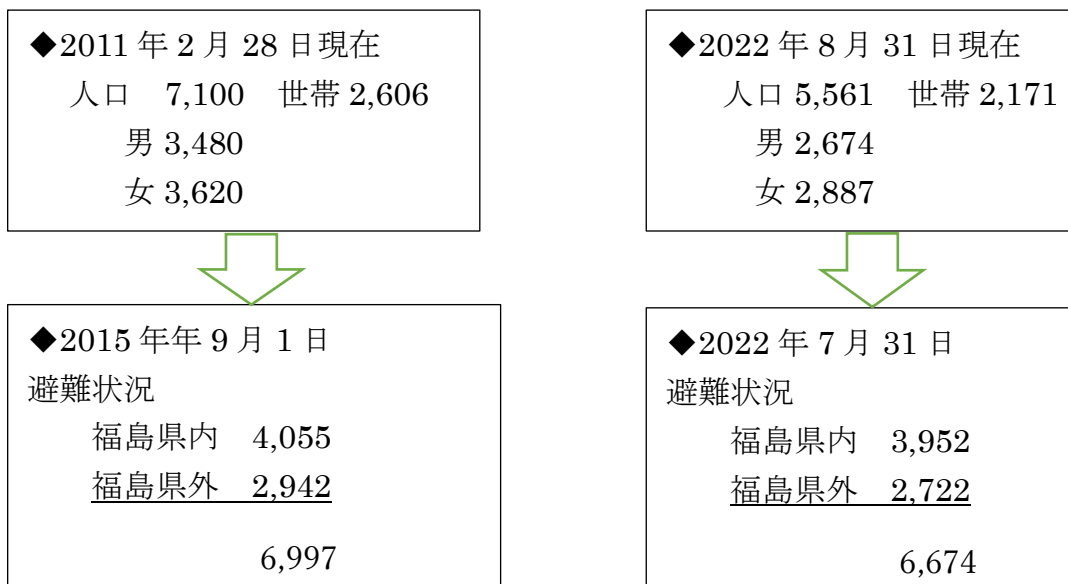


この状態で、町の人々は帰って来れるのだろうか。

双葉町で自動車整備工場を営んでいた、A氏は「もう帰らない」と断言する。そのような人々が多い。

例えば双葉町の人口動態を見る。この場合、単純な人口の増減では実態はわからない。ほとんどの人々が住民台帳をそのままにして避難し、今も多くがそのままにしているからだ。「帰りたいが、なかなか帰れない」「避難援助は切られ、税金は二重にかかる。まるで我々住民が事故を起こした、と言われているような気持ちだ」(Aさん)、という人々の苦悩を反映しているのだ。

現在の人口動態を見るには、むしろ避難状況の方が現状を反映していると言える。



9月5日から業務開始した双葉町新庁舎▲ 付近の放射線は  $0.35 \mu\text{Sv}$

さらに、復興庁、福島県、双葉町が令和3年8月23日～9月6日にかけておこなった共同調査「住民意向調査」の結果を次ページに示す。



## 双葉町調査結果のポイント

- ・ 将来の帰還意向やその判断の前提となる情報、帰還した場合に行政に望む支援等の把握を目的に実施。
- ・ 復興庁、福島県、双葉町の共同調査は 10 回目。

### (1) 帰還の意向

戻りたいと考えている（将来的な希望も含む）	11.3%（10.8%）
まだ判断がつかない	24.8%（24.6%）
戻らないと決めている	60.5%（62.1%）

※(カッコ)書きは、それぞれ前回調査(R2.8)結果

### (2) 帰還を判断するために必要なこと（上位抜粋）

医療・介護福祉施設の再開や新設	48.2%
商業施設の再開や新設	28.8%
上下水道等ライフラインの整備状況に関する情報	25.6%
双葉町の今後の姿	15.9%
JR 双葉駅西側に整備する新たな公営住宅に関する情報	14.6%

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」と回答した方のみ回答

### (3) 双葉町を訪れたいくなる取り組み・行事・イベント（上位抜粋）

お祭り・イベントなどの地域行事	44.8%
農地や環境の保全活動	11.7%
運動・スポーツなどの健康づくり活動	10.5%
世代間交流・ボランティア活動	8.8%
趣味・料理・ものづくり教室などの文化活動	7.1%

※帰還の意向で「まだ判断がつかない」「戻らないと決めている」と回答した方のみ回答

もう一つ、双葉町民初め福島県民を不安に陥れているのは、「汚染水（処理水）」の海への投棄だ。日本はおろか世界に汚染水をばらまくことへの疑問である。

「しんぶん赤旗」9月22日付報道によると、

**宮城県漁協などが、「汚染水処理  
放出せず別の方法で」と国と東電  
に、3月の一次分と合わせて要請署  
名 22万 1,000 人分を提出した。**



（以下報道文から）政府・東京電力が福島第1原発で高濃度のトリチウム（3重水素）などを含む汚染水（ALPS処理水）を薄めて海洋放出しようとしている問題で、放出に反対する全国からの署名が21日、東電と経済産業省に提出され、同時に海洋放出を行わないよう求める要請が行われました。

要請を行ったのは、宮城県漁業協同組合、福島県生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、岩手県生活協同組合連合会、みやぎ生協・コープふくしまの5団体。署名は2021年6月に開始し、今回は第2次で、4万2千人分が提出。今年3月に提出された第1次署名と合わせると、22万1千人になります。

署名は、福島第1原発で発生するALPS処理水を、海洋放出は行わず、関係者、国民の理解が得られる別の方法で処理することを求めています。（太字は引用者）

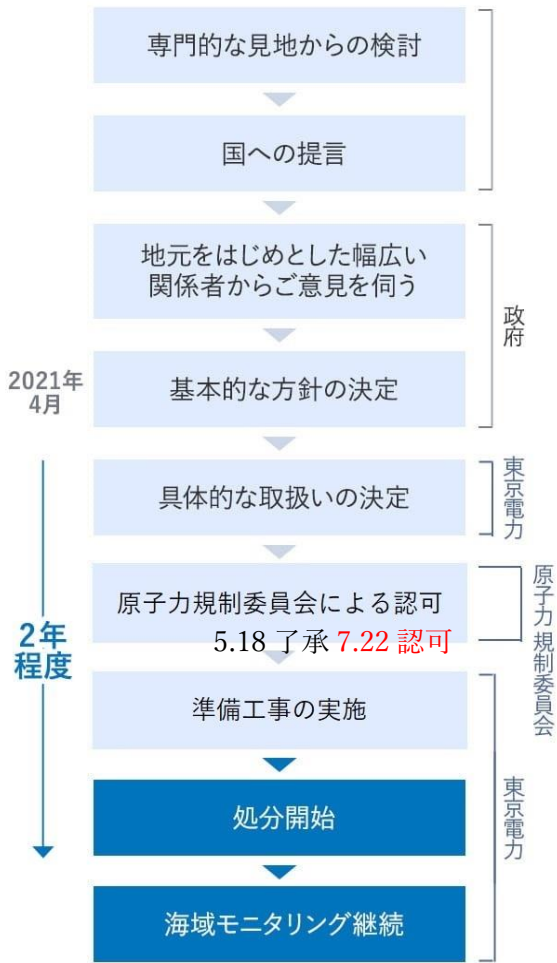
東京電力では、みやぎ生協・コープふくしまの冬木勝仁代表理事・理事長が「私たちの思いや不安を受け止め、事業運営に生かしていただきたい」と要請。東電の担当者は「事業者としての責任を果たす」と述べるにとどまりました。

経産省での要請で冬木氏は「処理水の海洋放出は行わず、別の方法で処理を」と求めました。経産省の担当者は「さまざまな意見があることは重々承知している」と述べました。（以下略）

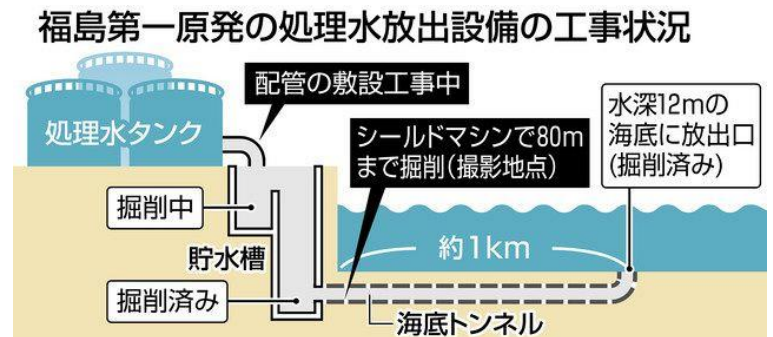
**「稀釈」というトリック** 国や東電は、汚染水は充分「稀釈」して流す、という。つまり薄めて流すのだ。ところが、トリチウムを始め汚染水に含まれるあらゆる核種そのものを、薄めることは化学的に出来ない。大量の海水や水に混ぜようと、処理できないトリチウム始め13の核種はそのまま残り、海を浮遊し、排水口付近などに沈殿。食の連鎖を通じて生態系に悪影響を及ぼす。

この「汚染水」を国や東電はおおがかりに、海に捨てようとしている。

国や東電、各紙の資料から見てみる。



「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する検討状況について」(資源エネルギー庁)をもとに作成



上図 2022年9月6日東京新聞 (Web) から  
下図 8月1日同京新聞 (Web) から

タンクエリア 奥には、1~4号機がある。3号機の上には、設置中の燃料取り出しカバー





シールドマシン掘進の作業状況

2022年9月6日東京新聞（Web）から

これらの作業には協力企業から7000名ほどが参加しているという



一般社団法人「被曝と健康研究プロジェクト」役員

顧問 有馬理恵 劇団俳優座女優、石塚健 医師、沢田昭二 名古屋大名誉教授、理論物理、内部被曝研究者、曾根のぶひと 九州工業大名誉教授、玉田文子 医師、西尾正道 北海道がんセンター名誉院長、本行忠志 大阪大医学系研究科教授、益川敏英 ノーベル物理学賞、名古屋大特別教授・素粒子研究機構長、京都大名誉教授(2021年7月23日逝去) 松崎道幸 道北勤医協ながやま医院院長、矢ヶ崎克馬 琉球大名誉教授

代表理事 田代真人 ジャーナリスト、理事 浅野真理、住田ふじえ 監事 三宅敏文

「LETTER」の内容についてのご意見は下記へお寄せください。

一般社団法人 被曝と健康研究プロジェクト 代表 田代真人

〒325-0302 栃木県那須町高久丙407-997

Eメール：masa03to@gmail.com